

平成24年度 事業報告

社会福祉法人 四天王寺福祉事業団

平成24年12月の政権交代以降、景気に明るい兆しが見えるが、福祉行政については先
行き不透明な状態が続いている。当法人は「自立、責任、自律」を掲げ堅実な経営に取り
組んできた。今年度の実績を見る限りある程度の成功を収めているといえよう。今後とも
その進化の継続を目指すとともに、法人の宣言に立ち返り福祉社会の実現を目指し良質で
信頼されるサービスの提供のためにすべきことを粛々と実行していきたい。

我々は平成24年度事業方針において本年度を「守・破・離」の「守」に立ち返りPDCA
サイクルを回す年と位置付けた。年度当初に企図したブラッシュアップを含め、これまで
の取り組みについてはおおむね順調に事業を遂行し、9月には四天王寺悲田院孝養棟の竣
工式も終えることができた。しかし、Planに基づき忠実にDoを実施する一方、さまざま
なCheckに取り組んだところ、まだまだ網羅できていない隙間が存在することを実感した。

また、イノベーションのための会議を実施し、各事業部・委員会において平成25年度
以降にむけた事業の検討を行なったことで問題意識の共有を進めることができた。2年目
となった副部長制についてはそれぞれの事業に大きな力を発揮したが重要性が増すにつ
れ、スケジュール調整が難しくなるなど課題を残した。法人の横断的な課題を解決するた
めには縦横の連携が必須であり、事業とのバランスをマネジメントしなければならない。

医療事業部全体では、大きな財務の改善を見た。四天王寺病院は、期中での医師の欠員
等があったが収入では前年を上回った。和らぎ苑は、3階病床の施設基準を 10：1に切り
替えた。四天王寺病院・和らぎ苑に共通して、老朽化する医療機器の入替や躯体設備の段
階的な改修を計画的に進め、看護師の計画的な求人活動の継続と必要定数確保に向けて取
り組んだ。

高齢事業部はサービス向上の取り組みとして、ハード面では悲田院高齢者施設の建替え
(9月に完了)や各施設の設備改修による居住環境改善を行い、ソフト面では介護技術の
向上のため、外部講師による技術導入や外部研修への職員派出を積極的に実施し、職員全
体の技術力の底上げに努め、D0 - CAPシートを活用した人材育成、報告・連絡・相談機能
の強化、感染症対策を行った。

障害事業部は障害者自立支援法の報酬改定及び児童福祉法改正の年であったが、悲田院
児童発達支援センター、太子学園においては、新制度サービス体系への円滑な移行を行う
ことが出来た。また、制度移行及び稼働率向上等により人件費は増加したが、収支につい
ては維持した。各施設において利用者の住環境改善計画を実施した。

母子・保育事業部は前年に比べ事業収入が減少した。女性自立支援センターの一時保護
利用者が大きく減少したことが要因となっている。また同施設の指定管理契約は平成26
年度以降定員の減少が予定されており、それに伴う委託費減少の対応に取り組んだ。悲田

院、夕陽丘保育園においては、定員の増、保育時間の延長、大規模改修に取り組んだ。太子乃園、研徳田においても送迎サービスを強化し、利用者サービスの向上を図った。

研修委員会は外部講師によるハラスメント研修を実施し、財務委員会は社会福祉法人会計新基準の平成26年度導入に向けたスケジュールの具体化と会計ソフトの選定を行った。

実力はまだまだ不足するところであるが、今年度は自ら律し自らの責任で事業を展開する自立した法人として、自らの問題点の抽出とその解消に取り組んだ年となった。

以上